

栃

33

北関東経済

【第三種郵便物認可】

北関東

文化庁が24日公表した2018年度認定分の日本遺産に、北関東から栃木県の2件が選ばれた。宇都宮市の大谷石(おおやいし)文化と那須塩原市など4市町が申請した明治貴族による那須野が原の開拓史で、観光振興など地域活性化への効果が期待される。各自治体は認定をテコに、情報発信や人材育成などを強化する考えた。

日本遺産に「大谷石」「那須野が原」

89万トが出荷された石材。市は採石場跡の巨大な地下



観光振興の追い風に

宇都宮市は大谷石造りのカトリック松が峰教会でセルモニーを開いた

空間などを生かした観光振興に注力しており、日本遺産の認定が追い風になる。

佐藤栄一市長は「よりいっそう多くの人に足を運んでもらいたい」と、観光誘客の加速に期待を寄せた。

市は同日、歴史・文化や観光に関わる団体などと「宇都宮市大谷石文化推進協議会(仮称)」を6月に立ち

自治体 情報発信など強化

上げると発表。情報発信やガイドの育成などに取り組んでいく考えた。

那須塩原市や矢板市など4市町が認定を受けたのは「明治貴族が描いた未来」那須野が原開拓浪漫譚」と題したストーリー。明治時代の華族が荒野を切り開き、広大な農場とした足跡を点在する旧別荘でたどることができる。今年度の認定分で全67件となった。北関東では過去に足利学校(栃木県足利市)と弘道館(水戸市)を含む近世日本の教育遺産群や、群馬県桐生市などの絹産業の文化が認定されている。

有名だが、平地の那須野が原は観光資源として活用し切れていなかった。4市町は文化庁の補助金を使い、多言語対応の観光アプリやガイド育成のための教本の作成などを計画する。